

琉球大学学術リポジトリ

《技術・家庭科（家庭分野）》 学びをつなげよりよい生活を創造する生徒の育成（3年次）：
生活の営みに係る見方・考え方を働かせる協働学習の工夫を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属中学校 公開日: 2020-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上間, 江利子, 田原, 美和, 土屋, 善和 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46011

学びをつなげよりよい生活を創造する生徒の育成（3年次）

-生活の営みに係る見方・考え方を働かせる協働学習の工夫を通して-

上間江利子* 田原美和** 土屋善和**

*琉球大学教育学部附属中学校 **琉球大学教育学部

I 主題設定の理由

1 社会的背景から

これからの社会は、予測が難しく変化の激しい時代と言われている。生徒達がこれからの社会をよりよく生きていくためには、思考スキルを使って問題解決していく力が求められている。本校研究テーマ 21 世紀型思考力を、社会の変化に対応し、21 世紀をよりよく生きる力を支える思考力と本教科では捉え、研究を進めていく。教育課程部会家庭、技術・家庭ワーキンググループ資料¹⁾家庭科の今後の在り方の中で、生活上の課題を設定し、解決方法を考え計画を立てて実践するといった問題解決的な学習が効果的に行われていないことを課題として挙げている。そこで、「将来を見通した生活設計に必要な生活の課題についての内容を充実する必要がある。」とし、今後の家庭科の改善の視点案として「家庭科で育成する資質・能力」が示された（図 1）。

- | |
|---|
| ○生活を科学的に理解し、生涯を通して安心・安全・健康的な生活を営む実践力を育成する |
| ○生活の課題を解決するために、様々な年代の人と協働し、コミュニケーションして主体的に参画する力 |
| ◆少子高齢化に対応する力
(子育て理解、高齢者の理解、生涯生活設計能力) |
| ◆生活課題を解決するために必要な社会参画力・コミュニケーション能力（地域コミュニティを構築） |
| ◆持続可能な社会を構築する力
(消費・環境に配慮したライフスタイルの確立) |
| ◆グローバル化に対応する力
(衣食住の生活文化の継承・発信) |

図 1 家庭科で育成する資質・能力

家庭科は生活に関わる教科であり、社会の変化への対応を踏まえた指導が今後より一層求められる。「家庭科で育成する資質・能力」（図 1）を目指し、本教科の授業実践を考えていきたい。

2 これまでの研究から

(1) 成果

(1年次)

- ・21 世紀型思考力の育成のため、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた家庭科の授業を工夫し、食生活分野で実践することができた。
- ・知識構成型ジグソー法を取り入れ、健康のためどのような食生活を目指せばよいか、生徒一人ひとりが明確にし、学びを深めていくことができた。
- ・毎時間、振り返りを活用することで、生徒の学びのプロセス、理解度、気づきが明確になり、授業づくりにいかすことができた。

(2年次)

- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた生活文化の継承・発信の授業デザインを実践し、生徒が生活事象の背景まで考えを広げ、生活事象を多面的・多角的に捉えることができるようになった。
- ・知識構成型ジグソー法、パフォーマンス課題、OPPシートを取り入れた授業を工夫し、深い学びにつなげることができた。

(2) 課題と改善点

- ・「主体的な学び」を、生活で生かす「実践力」をはぐくむ学習へつなげる工夫と、「対話的な学び」、「深い学び」について引き続き研究を行っていく。

・知識構成型ジグソー法は、新たな知識を自分の言葉で表現したり、グループで協力して新たな解を作り出す。本研究では協働学習の工夫の一つとして、取り入れている。これまでの実践では、エキスパート資料の作成・改善に時間を費やし、ジグソー法での思考を深めさせる授業研究は充分とは言えなかった。今年度は授業内での生徒の気づき、理解、つまづきを丁寧にとれるよう研究を進めていく。

3 生徒の実態から

様々な生活事象について捉え考える場面で、多くの生徒は、表面的な部分、主だった部分での解釈や知識に頼りがちな面がある。『なぜそうなのか?』『理由は?』と聞いてみると『教科書に書いてあったから』『そう習ったから』『そう思うから』と回答する生徒も多い。ライフスタイルが多様化し、答えは一つではないこと、多様な考えや意見があっていいことをベースに授業を行っているが、自分の考えであれば何でもよいということではない。課題解決に向けた意見交流の場面で『いろんな意見があっていいよ』と教師は声かけを行うが、その根拠となるのが生活の営みに係る見方・考え方である。以上のことを踏まえて本研究では、よりよい生活を工夫し創造できるよう、生活の営みに係る見方・考え方を働かせる協働学習の工夫を通して思考力・判断力・表現力等をはぐくむ家庭科の授業を考えていきたい。

II 本研究の目的

本研究の目的は、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた持続可能な社会の構築を目指した消費生活の授業実践を通して、消費生活の営みに係る見方・考え方を理解し、多面的・多角的に考え、よりよい消費生活を創造する生徒を育成することにある。

III 目指す生徒像

- 1 よりよい生活を目指し、主体的に学び、生活を工夫し創造できる生徒。
- 2 持続可能な社会の構築の視点を持ち、多面的・多角的に消費生活を考え行動できる生徒。

IV 研究内容

1 家庭科におけるアクティブ・ラーニング

教育課程研究会(2016)「アクティブ・ラーニングを考える」⁽²⁾の中で、「家庭科では、生徒が学習の中で習得した知識・技能を活用し、実生活での実践につながる問題解決的な学習を充実させることが重要である。」と述べられている。また「計画、実践、評価、改善の一連の学習過程において見通しを立てたり振り返ったりする学習活動を取り入れ、生徒の学習意欲を向上させる指導の展開を工夫することが求められる。その際、生涯にわたって自立し、共に生きる生活を創造するために、学習の対象となる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等に係る見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につながる深い学びを実現することが必要である。」とある。それを踏まえ、見方・考え方を働かせて思考・判断・表現する授業づくりが必要であると考えます。

2 生活を工夫し創造する能力とは

家庭科では「生活を工夫し創造する能力」が「思考力・判断力・表現力等」にあたり、教育課程部会資料⁽³⁾の中で、3つの能力をこれからの生活を展望して、よりよい生活を目指して課題を解決し、生活の中で活用する能力とし、次のように示されている(図2)。

思考力・判断力・表現力等	①様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、総合的に考察する力
	②家族・家庭や地域における問題を課題として把握し、解決策を構想し、評価・計画する力
	③実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力
	④他者の意見を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流する力

図2 家庭分野における思考力・判断力・表現力等

今年度は「①様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、総合的に考察する力」の育成を丁寧に取り組んでいくことで、本教科の研究

テーマ「学びをつなげよりよい生活を創造する生徒の育成」の実現に迫れるものと考え進めている。

「③実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果について、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力」については、1年次の研究実践、食生活の知識構成型ジグソー法の授業で取り組んだ。学校全体で育成に取り組んでいる能力でもある。「④他者の意見を取り入れたり、自分の意見を主張したりして意見交流する力」については、よりよい意思決定力にもつながる。可能な限り毎回の授業の中で、はぐくんでいけるよう意見交流の場の設定を行っている。

また、「生活を工夫し創造する能力」をみとる場面で、家庭科の学びを自身の生活につなげ、工夫を考えていくが、生徒それぞれの生活は異なるので、多様な生活の工夫を考えて欲しいが、家庭科の学び以上に考えを広げることができない生徒も多い。その要因として部活動や塾通い等、家庭で過ごす時間が減少していることにより、実践する機会が少ない点が挙げられる。生活の工夫の仕方について、具体的な例を提示し解を示してしまうと考えが深まらないため、生活に係る見方・考え方を働かせ、生徒自身に解を導き出させる工夫が必要がある。

3 具体的な取り組み

(1) アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり

アクティブ・ラーニングの視点「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を取り入れた授業づくりを、平成28年度より取り組んできた。これまでの実践から、「主体的・対話的な学び」を通して「学びが深まる」ことが見えてきた。寺本(2016)⁴⁾は、「主体的な学び」「対話的な学び」を成立させる六つの要素として、「問題意識、知識・技能、とらえ方・考え方、メタ認知、合意形成能力、批判的思考」とし、アクティブ・ラーニングモデルを示した。その中で、「主体的な学びが成立する条件として、「問題意識」「知識・技能」「とらえ方・考え方」「メタ認知」の四つの要素が一部に偏ることなくバランスよく必要である」としている。

また、「対話的な学びが成立する条件として、「問題意識」「合意形成能力」「批判的思考」の三つの要素が一部に偏ることなくバランスよく必要である」としている。そこで、寺本(2016)が示したアクティブ・ラ

ーニングモデルを参考に、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」の生徒の姿を、以下のように具体化した。

①「主体的な学びの姿」

- ・自分事として生活問題を考え、意思決定し行動できる。

②「対話的な学びの姿」

- ・対話を通して、新たな知識や考え方を共有し、共通点や違いを整理し、よりよい解や解決に向けて考えを深め・広げることができる。

③「深い学びの姿」

- ・習得した知識・技能、見方・考え方を働かせ、自分の意見を明確にすることができる。

- ・自分の考えや行動が正しいかどうかをメタ認知し、改善していくことができる。

- ・自他の意見の共通点や差異を整理・調整できる合意形成能力を働かせることができる。

- ・他者の意見を理解・整理し、目標に対する合理性を根拠として批判的思考で問題を検討し、最適解を導くことができる。

- ・様々な生活事象について他の生活事象と関連付け、批判的に検討し、総合的に考察することができる。

上記のような学びの姿を目指し、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、目指すべき授業を検討した。

(2) 持続可能な社会の構築を目指した消費生活の授業

家庭科では、生徒自身が「生活主体者」であることに気づき、自発的に自身の生活をよりよくしていこうという意欲を持つことが大事であり、主体的な学びのスタートとなる。自身の生活をよりよくしていこうという意欲(モチベーション)は、生徒個々の生活と密接に係わっているため、様々な要因により左右されることもあり、指導の難しさとなることもあるが、学びの広がりにもつながる。消費生活の学習においては、自身の行動が地球環境や社会に影響していくという「消費者」としての自覚持たせ、学びを深めていくことが大事である。

①消費生活における「21 授業世紀型思考力の育成」

本校研究テーマ21世紀型思考力を、社会の変化に対応し、21世紀をよりよく生きる力を支える思考力と本

教科では捉え、研究を進めている。持続可能な社会の構築の視点を持ち、地球に住む人々、生物、次世代の幸せにつながるエシカル（ethical・倫理的）な消費について考え、主体的に環境に配慮した消費生活を実践しようとする力をはぐくんでいきたい。

②エシカル（倫理的）消費とは

消費者庁では、平成27年度に「倫理的（エシカル）消費調査研究会」が設置され、平成29年4月に「倫理的消費」調査研究会取りまとめ「～あなたの消費が世界の未来を変える～」⁵⁾が報告された。その中で、倫理的消費とは「より良い社会に向けた、人や社会・環境に配慮した消費行動」と定義している。

③消費生活に係る見方・考え方

消費生活に係る見方・考え方とは、持続可能な社会の構築の視点を持ち、多面的・多角的に消費生活を考え行動できることである。ESD（持続可能な開発のための教育）の視点や、SDGs17の目標なども考慮し、教材研究を行った。

(3) 知識構成型ジグソー法を取り入れた授業デザイン

知識構成型ジグソー法⁶⁾⁷⁾は、CoREF（東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構）の開発した協調的な学びを引き起こすアクティブ・ラーニング型の学習形態である。本校では、平成25年度から27年度までの3年間、「未来を切り拓く対話からの学び-協調学習による個を生かす授業づくり-」をテーマに全教科で知識構成型ジグソー法を取り入れた授業づくりを行ってきた。家庭科の成果として「知識構成型ジグソー法を題材の導入部分で取り入れることで、題材への興味を高めることにつながる」「他教科との関連性持たせた視野の広い課題に取り組みやすく有効であった」⁸⁾ことを引き継ぎ、本研究においても1年次に「食生活」、昨年度は「生活文化の継承・発信」の題材で知識構成型ジグソー法の授業実践を行ってきた。これまでの研究から、「問い」「エキスパート資料」を工夫することで「主体的」「対話的」「深い学び」へとつながることが検証できた。今年度も「消費生活・環境」の題材において、題材の導入時に知識構成型ジグソー法を取り入れ、エキスパート活動、ジグソー活動の中に生活に係る見方・考え方を働かせる場を設定し、21世紀

型思考力の育成に取り組んでいく。

(4) 一枚ポートフォリオを取り入れた学びのみとり

一枚ポートフォリオ評価法（OPPA：One Page Portfolio Assessment）⁹⁾は、堀（2013）によって提唱された評価法でOPPシートを用いる（図3）。

生徒自身が自らの学び（思考や認知過程の内化・内省・外化）の軌跡を自己評価することでメタ認知する資質・能力を高めていくことにつながるとされている。本校でも、いくつかの教科で取り入れており、家庭科も昨年度より取り入れ、生徒の学びのみとりについて研究を深めている。

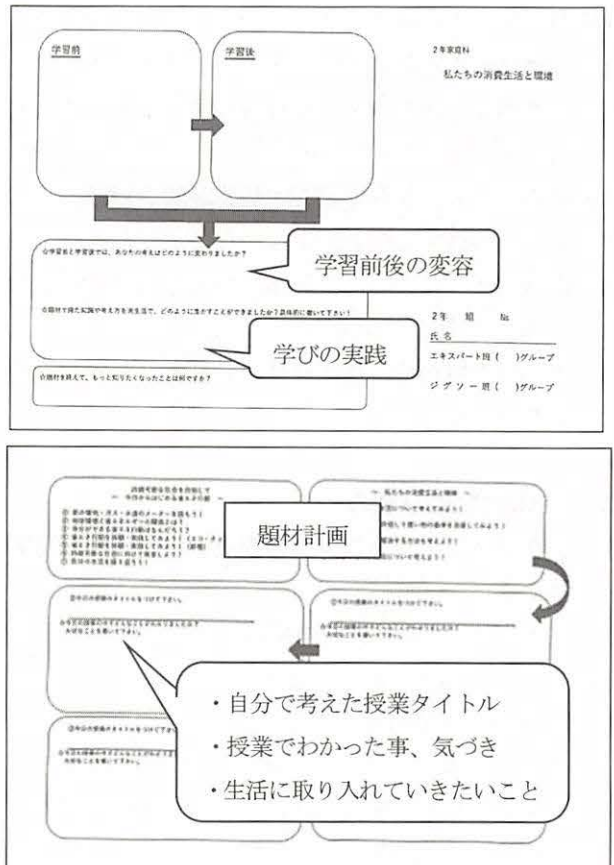


図3 消費生活と環境のOPPシート（A3両面）

V 授業実践

1 2学年実践事例

(1) 題材名 私たちの消費生活と環境（東京書籍）

(2) 目標

- ・持続可能な社会の構築の視点を持ち、多面的・多角的に消費生活を捉えることができる。

- ・環境に配慮した消費生活について考え、自分の買い物の基準について見直すことができる。

(3) 本実践の目的

本題材は、新学習指導要領「C消費生活・環境」(1)(2)で構成されている。自分や家族の消費生活に関心を持ち、「金銭の管理と購入」「消費者の権利と責任」について理解を深め、物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。さらに、自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解し、持続可能な社会の構築の視点を持ち、環境に配慮した消費生活について工夫・実践できる力が求められている。

商品を購入するということは、個人の生活の質や満足度を高めるだけでなく、企業・事業者への投票であること、買い物の社会的な意味を理解させ、生徒一人ひとりが環境や人に優しい社会を作る消費者であることを自覚できるよう学習を進めていく。

(4) 実践内容

昨年度までの実践から、本実践を行うまで「消費行動」と「環境への影響」をつなげて考えている生徒が少ないことがわかった。また、環境保全は大事だと理解しているが、調理実習などでの生徒の行動を見ると、環境に配慮した行動ができていないと言いき難い。

そこで「B衣食住の生活」と関連した内容を充実させ、これまで3学年で行っていた「C消費生活・環境」を2学年で行い、3学年で「消費生活・環境についての課題と実践」につなげていく工夫を行った。従来の指導計画では「消費生活」の学習の後に「環境」についての学習を行うが、本実践では「環境」についての学習後、本題材に入った(表1)。

表1 題材の指導計画

	学習内容	授業形態
1	附中33期の消費生活について考えてみよう!	グループ 全体・個人
2	持続可能な社会を目指して買い物の基準を見直してみよう!	ジグソー 学習
3	消費者トラブルを解決する方法を考えよう!	グループ 全体・個人
4	消費者の権利と責任について考えよう!	全体・個人

家庭での省エネ行動の実践を通して「行動変容は難

しいことではあるが、地球温暖化は深刻で自分にできることを取り組んでいきたい」という考えをほとんどの生徒が持ち、消費生活の学習がスタートした。

第1時では「あなたの買い物は、どのタイプかな」という問いでスタート、タイプ別にグループを作り、それぞれの考えについて、話し合いや意見交流を行った。また、今、欲しいものを3つあげ、それらが本当に必要なもの(needs)なのか、本当はなくてもいいもの(wants)なのか考え、商品購入のプロセスをたどり、買い物のシミュレーションを行った。

第2時では、持続可能な社会を目指し、環境に配慮した消費行動についての理解を深めるため、知識構成型ジグソー法を取り入れた。エキスパート活動では、資料(表2)から情報を読み取り、課題に取り組んだ。

表2 エキスパート資料

エキスパートA 「買い物は投票、何をどう選ぶ」
エキスパートB 「地球の環境保全に関する表示やマーク」
エキスパートC 「私たちにできること」
エキスパートD 「循環型社会を目指すために」

それぞれの資料の理解がより深まるよう、フェアトレードチョコや、レインフォレスト・アライアンス認証マーク入りの紅茶など実際の商品を用意した。生徒たちは、商品からも情報を読み取り、協力して各エキスパート活動を進めていった(図4)。



図4 エキスパート活動の様子

ジグソー活動では、エキスパート資料(表2)の4つの視点を取り入れながら、エシカルな消費行動について理解を深め、メインの問い「誰かの笑顔につながるエシカルなお買い物とは？」について意見交流し、

班の考えを話し合いながらまとめていった (図5)。

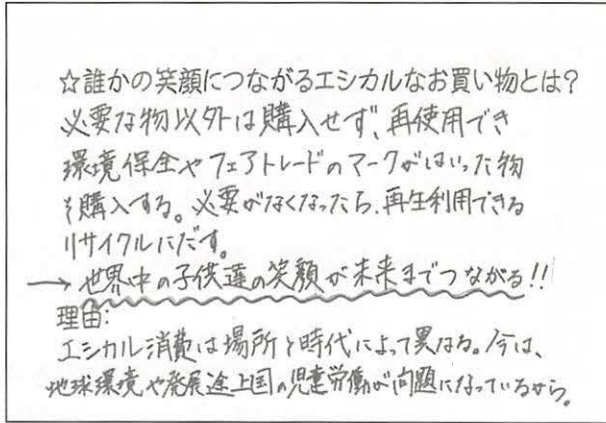


図5 班の考えをまとめたワークシート

クロストークでは、他の班の考えに触れ、よりよい消費生活を目指し買い物の基準を見直す意思決定を行った (表3)。

表3 ワークシート生徒記述

	意思決定	理由
生徒A	フェアトレードやFSC認証マークのものを買い、よりよい消費生活を目指す。外国産の場合、生産者が苦しんでいないか調べて確認する。	フェアトレードすると相手国も自国もWinWinになり、FSC認証マークはCO ₂ 削減につながりエシカルな消費になる。
生徒B	環境や労働者に配慮している商品を選んで買ったり、昔の人々のようにむだ使いせず、物を最後まで使う消費生活を目指したい。	そんな買い物や生活をみんなが続けると世界中が笑顔になれると思うから。

エシカルな買い物について考えることを通して、環境や、生産者に配慮した消費行動を考え、全員が自分の買い物の基準を見直すことができた。

生徒Aは、フェアトレードの利点を理解し、国と国との対等な関係構築に着目したことが、ワークシートの記述からみとれる。生徒Bは、環境や労働者(生産者)に配慮している商品を選ぶこと、また「江戸時代と循環型社会」の資料を通して、物を最後まで使う大切さに気づき、意思決定したことがみとれた。意思決定の理由をワークシートに記述することで、思考を整理し、自身の考えをより明確にすることにつながっていた。

第3時では、消費者トラブルについて理解を深め、解決方法についてグループで話し合い、互いの考えを交流し合った。

第4時では、消費者の権利と責任について理解を深め、題材全体を振り返り、OPPシートをまとめていった。

(5) 実践の考察

① 生徒の学習の評価

学習後の生徒の記述から、消費生活に対する意識の変容や、消費生活で学んだことを、生活に生かそうとする姿をみとることができた。

また、生徒自身が気づいた変容として、学習前は「消費とは、自分(個人)だけの事として考えていたが、学習後、自分の消費が社会や環境と関係していることに気づいたので、社会や環境への影響を考え行動するようになった」という内容が最も多かった。

表4 OPPシート生徒記述

	題材学習後の生徒記述
生徒C	・学習前は、消費生活は自分だけに関係していることだと思っていたけど、学習後は地球や環境など、世界のことに関係していて、アフリカなどの人の生活に関わっていることがわかった。これからはそのことをふまえて、3回に1回フェアトレードチョコを買ったり、環境のことをしっかり考えていきたい。
生徒D	・学習後、買い物をする時に商品にどのようなマークがついているか確認したり、その商品がリサイクルできるかどうかを考えるようになりました。欲しいものがあったら、それが本当に必要なものかどうか(needsかwants)を考えるようになりました。
生徒E	・学習前は、値段、品質だけ見ていたので、それで、長い時間、何をかうか迷ったこともありました。買った後も、その選択が正しかったのか、もやもやしていました。でも、フェアトレード商品などを買うことで、買い物で何かできるとわかったので、あまりもやもやせずすむと思います。マークを探して買いたいです。

生徒Cは学習後、自身の消費生活が地球や環境につながっていることに気づき、自分の状況にあった消費生活を目指した。生徒Dは、マークの確認を通した商品の吟味、発生抑制の視点を持つことができた。生徒Eは、商品選択の基準に値段・品質、プラス社会貢献という新たな視点を見いだしたことが記述よりみとることができた。

② 授業デザインの振り返り

本題材は、これまで生徒に自分事として考えさせるのが難しい分野であった。その理由として自分で働いて収入を得ているわけではないので、「将来のための学習」「自分で買うものって、ほとんどないよ」など主体的になれない姿が見られた。また、これまで3学年での学習であったため、受験生ということもあり、学校と塾中心の日々で、「最近の買い物って1ヶ月以上前だった」という生徒も多かった。

そこで、これまでの課題を踏まえ、本実践は2学年で実施できるように指導計画の見直しを行った。修学旅行前後だったということもあり、消費に係る機会も多く題材全体を通して、消費生活の学びと自身の生活をつなげ主体的に考えることができていた。

エシカルという言葉に初めて触れる生徒がほとんどで、最初のクラスは、ジグソー活動でのつまずきが見られた。そこで、エキスパート資料の中に「エシカル消費には正解はありません。場所や時代によって異なります。今の時代、これからの社会にとって何が必要か？どのような課題や問題があるのか？問題や課題にどうやったらエシカルなアプローチができるのか考え、想像することが大切です。」という文を入れ改善を行ったことで、生徒達は解の方向性を見出し、話し合いを進めることができていた。

本実践は、「消費生活」と「環境」をつなげて考えることができるよう授業デザインの工夫を行った。学習

前後のウェビング・マップ(図6)の記述からも、「消費生活」と「環境」をつなげることができていることがみとれた。また、生徒たちの「消費生活」についての知識の広がりもみとることができた。

③ 実践を踏まえた授業の改善点

消費生活と環境をつなげ、消費生活について多面的・多角的に深く考えさせることができた実践となったが、自身の消費生活の課題解決に向けた取り組みについては、生徒の記述のみであるため、「エシカルな消費行動をしていきたい」という思いを多くの生徒が持つことができたこととみとることはできたが、実践のみとしては充分とは言えない。今後は、家庭での実践をレポートにまとめるなどの活動を取り入れ、改善を図りたい。発信することにより、それぞれの生徒の実践を共有でき、さらに広がりのある学習にできる。

また、新学習指導要領(平成29年告示)¹⁴⁾では「C消費生活・環境」に「金銭の管理と購入」「消費生活・環境についての課題と実践」が新設された。本実践は、持続可能な社会の構築に向けて考え工夫することに重きを置いた研究であるが、消費者被害が低年齢化している状況を踏まえ、計画的な金銭管理の必要性、クレジットなどの三者契約についての学習の充実が言われており、3学年で行う「消費生活・環境についての課題と実践」にうまくつなげていけるよう指導の工夫を行っていきたい。

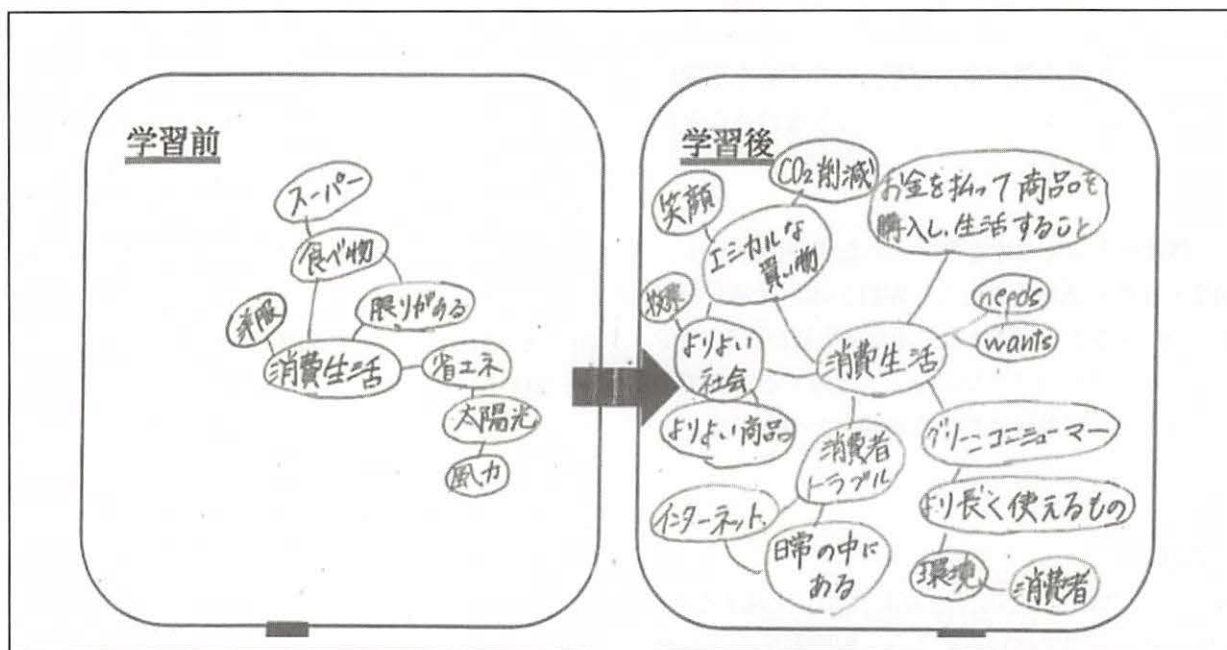


図6 生徒のウェビングマップ記述

VI 成果と課題

1 成果

(1) 持続可能な社会の構築の視点を持ち、多面的・多角的に消費生活を考え行動できる生徒の育成

- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業デザインを工夫することで、学びを通して、生徒自身が消費生活の課題に気づき、消費行動の変容を促すことができた。
- ・エシカル消費について考えることを通して、持続可能な社会の構築の視点で、消費生活を捉え行動しようとする生徒の姿が見られた。
- ・「自分の消費行動と環境とのつながりを、グローバルな（地球規模の）視点で考えて行動することができる」について題材の学習前は「YES」が50.0%であったが、学習後83.0%に増えた。約8割の生徒が持続可能な社会の構築の視点で消費行動を考え、「商品購入の選択肢にフェアトレード商品が加わった」、「本当に必要なものだけを購入するようになった」などの行動変容や意思決定がOPPシート、ワークシートを通して、みとることができた。

(2) 知識構成型ジグソー法を取り入れた授業デザイン

- ・エキスパート資料の視点を生活に係る見方・考え方とつなげ、見方・考え方を働かせる場を設定していくことで、題材ではぐくむ資質・能力の育成、目指す生徒像に迫ることが、3年間の実践を通して検証することができた。
- ・授業内での生徒の気づき、理解、つまづきを丁寧にもとり、思考を深めさせる授業づくりを行うことができた。

(3) 一枚ポートフォリオを取り入れた学びのみとり

- ・OPPAを取り入れたことで、題材全体の見通しを生徒に持たせることができた。また、生徒自身がOPPシートで、学びのプロセスをメタ認知することで学びが深まり、実生活における実践へとつながることが見えてきた。

2 課題

- ・身に付けた知識及び技能を生活に生かし実践する際、一度限りの実践で終わらぬよう、課題解決のプロセスの連続性や、積み重ね定着を図ることを視野に入

れ、指導計画の改善を図っていく。

- ・OPPシートの活用や、評価の生徒へのよりよいフィードバックを工夫し、生徒一人ひとりの学びのみとりの充実を図っていく。

引用文献・参考文献

- (1) 文部科学省『平成27年11月30日教育課程部会家庭、技術・家庭ワーキンググループ資料10-1』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)、2016.9.13 取得
- (2) 教育課程研究会編著『アクティブ・ラーニングを考える』東洋館出版社(2016) P.190-P.191
- (3) 文部科学省『平成28年3月11日教育課程部会家庭、技術・家庭ワーキンググループ資料9』
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/065/siryo/1369020.htm) 2016.8.24 取得
- (4) 寺本貴啓・後藤頭一・藤江康彦「六つの要素で読み解く！小学校アクティブ・ラーニングの授業のすべて」東洋館出版社(2016)
- (5) 「倫理的消費」調査研究会取りまとめ～あなたの消費が世界の未来を変える～ 倫理的消費調査研究会(2017)
- (6) P.グリフィン B.マクゴー E.ケア編
三宅ほなみ監訳『21世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち』北大路書房(2015)
- (7) 三宅ほなみ 東京大学 CoREF 河合塾編「協調学習とは 対話を通して理解を深めるアクティブラーニング型授業」北大路書房(2016)
- (8) 琉球大学教育学部附属中学校紀要28集(2015)
- (9) 堀哲夫著『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価OPPA 一枚の用紙の可能性』東洋館(2013)
- (10) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編』(2018)
- (11) 渡辺龍也監修『考えよう！やってみよう！フェアトレード』彩流社(2015)
- (12) 末吉里花著『はじめてのエシカル』山川出版社(2016)